

# 深層水によるイセエビ蓄養試験

鍋 島 浩

高知県漁業調整規則によるとイセエビ漁期は9月16日から4月30日となっているが、期間中は解禁直後の9、10月の漁獲量が圧倒的に多く、冬季になると大きく減少し、3、4月に再び増加する。県下的に漁獲量の多い9、10月は単価が低く、年末になると価格が向上という現象が毎年続いている。そのため池ノ浦漁協（須崎市）のように個人が長期間蓄養し、価格向上による漁業収入の増大を図る地区もある。しかしながら芸東地区では蓄養のための適当な場所や技術がないため解禁直後の低価格の時期でも出荷せざるえない。

池ノ浦漁協によると蓄養の密度は約20kg/m<sup>2</sup>で期間中の重量での歩留まりは6～9割、また、減耗の大きな要因は脱皮中の共食いとのことであった。これは漁獲サイズになった雌では抱卵中は脱皮することがなく産卵が終了した秋期に脱皮が集中し、雄もこの時期が多いためである。

表1 蓄養結果

	H 9 . 10 . 6	H 10 . 2 . 24
尾数	53	51
平均体重 (g)	377	384
総重量 (g)	19,954	19,601
尾数歩留まり (%)	—	96.2
体重歩留まり (%)	—	98.2

初期の目的の脱皮を抑制することは1月まではほぼ可能となった。2月になって脱皮個体が出現するようになったが水温が低く活性も低いことから共食いは発生しなかった。また、餌料も定置網

## 1 目的

深層水を利用した簡便なイセエビ蓄養技術の開発。

## 2 材料と方法

蓄養に共したイセエビは三津地先で漁獲された53尾（平均体重377g、雌23尾、雄28尾）、約20kgである。これを平成9年10月6日に研究所に搬入し、シェルターを入れた1トン角形水槽に収容した。収容時の水温は25℃で徐々に深層水の割合を高め、10日間後には深層水のみとし水温を13℃前後に維持した。換水率は4回転で給餌はマアジを週2回体重の1%与えた。

## 3 結果

平成10年2月24日に取り上げた。期間中に2尾が弊死したがこれは漁獲時の傷が原因であった。脱皮は9個体で2月に集中した。重量での歩留まりは98.2%で単価は2,000円/kg上昇した。

で漁獲される雑魚が可能で経費もほとんどかからないことから、今後は漁協等が事業規模での蓄養を行い、高価格時の販売により漁業収入の増大を図るべきと考えられる。